



優秀賞 (総合部門)

リフォーム前後の写真

タイトル 壁の代わりに収納で区切る フレキシブルな大空間

タイプ 持家共同建

講評

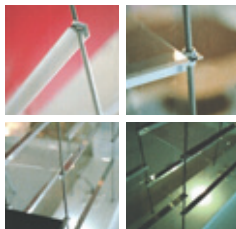
マンションリフォームでは、室数を減らして広い空間にすると、部屋の中に梁型が露出してしまふ。この例ではそれを逆手に取って、赤く塗った梁型とその下部の透明な間仕切収納を室内のアクセントにしたのが効果的。



①リフォーム前のリビング。右手が和室。



②リフォーム前のリビング



間仕切り兼収納。ワンルールの開放感を損なわないように、シンプルなスチールパイプとアクリル板で構成。



③リビングを見る。白を基調としたシンプルな空間。天井もなくしRC表しとし、配管もむき出しにしている。これにより天井高は2.6mと高めになり、ワンルームとしても大空間がいっそう広く感じられる。



④スチール棚でリビングと仕切られた手前側は予備室で、将来的には子供室。子供が小さいうちは目が届くので安心である。



⑤リビングダイニングとキッチン、6畳の和室、6畳の洋室に分かれていたメインスペースを広々とワンルームに。



⑥梁にと収納。収納部分にはカーテンレールが取り付けられており、場合によっては個室としての利用も可能。



⑦梁と収納と照明。大きなワンルームを視線の通る間仕切りで仕切ることで狭さを感じさせない。



⑧採光が室内奥まで入りキッチンまで十分明るい。



⑨予備室と家事室を見る。



⑩リビングからキッチンを見る。収納部分の上下には照明が設置してある。

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

クライアントは一戸建ての夢も捨てきれず、土地とマンションの両方を探していた。そこで出会ったのがこの物件。マンションなら中古を買って自分たちに合うようにリフォームしようと考えていた。我々に出された要求は「リビングを広く収納を多く」というもの。その要望にこたえるためキッチンや個室の間仕切壁をすべて取り去り広いワンルームを考えた。しかし、天井には大きな梁が低く垂れ下がっていてワンルームにしても梁が目立ってしまい重々しい雰囲気をつくってしまう。

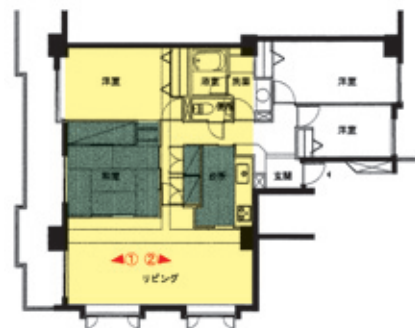
そこで既存の梁は赤く塗って空間のアクセントとし、この十字の梁に合わせてスチールパイプとアクリル板の収納を設置した。間仕切りを兼ねる収納はワンルールの開放感を損なうことなく、空間を緩やかに区切る。また場合によってはカーテンで作ることもできる。これによりフレキシブルな大空間が出来上がった。

特に配慮した住宅性能:

データ

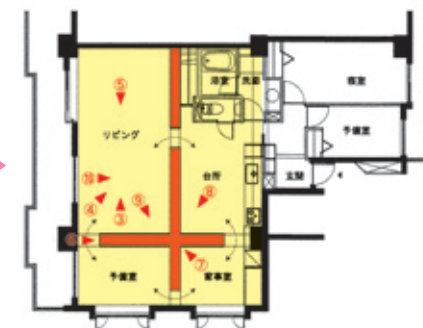
所在地	宮城県仙台市	構造/築後年数	鉄筋コンクリート造/17年		
該当工事面積	96 m ² /総工事床面積	96 m ²	該当部分工事費	672 万円/総工事費	672 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満: 2人/65歳以上:	人/15歳未満:	1人/ペット:		
設計者	(有)都市建築設計集団	担当者	手島 浩之		
施工者	(有)リテックス	担当者	佐々木 照夫		

リフォーム前



リフォーム前平面図 S=1/200

リフォーム後



リフォーム後平面図 S=1/200